

タウンウォッチング報告書

平成 28 年 3 月 24 日（木）

オリエンテーション

（「光」発信！プロジェクトチームメンバーとの顔合わせ）



タウンウォッチングに先立ち、行程等の説明を行うオリエンテーションを行うとともに、光市まちづくり市民協議会委員と「光」発信！プロジェクトチームメンバーの顔合わせを行い、一人ずつ自己紹介をしました。

①新病院建設予定地



平成31年度に開院予定の新光総合病院移転新築予定地において、新病院の基本方針や施設設備の概要、今後のスケジュール等について病院局の担当職員から説明を受けました。現地に行くことで、これからできる施設のイメージを膨らませることができました。

※建設事業の詳細は別紙「新光総合病院建設事業基本設計概要版」のとおり

②みちがみ病院



みちがみ病院では、上田院長から病院施設の概要等の説明を受けた後に、院内の施設見学を行いました。

病室や分娩施設にとどまらず、多目的ホールやエステルーム、キッズルームなど多様な施設を見学しました。普段なかなか見ることのできない施設を見学することで、患者一人ひとりに寄り添う姿勢を感じることができました。

③浅江中学校



浅江中学校では、「あさなえ英会話教室」を見学しました。ALT が地元住民を対象に定期的を実施しており、回を重ねるごとに参加者のレベルもアップし、高度な内容でした。和やかな雰囲気が印象的でした。

また、担当教員からコミュニティスクール事業概要の説明を受けた後に、生徒による地域とのつながりについての発表を聞きました。「We love ASAE」のキャッチコピーとともに、地元愛が溢れた力強い発表でした。

④梅田病院



病院内にある病後児保育施設「ラビングハグ」を見学し、その後、梅田先生による講義を受けました。

理事長のこれまでの豊かな経験から繰り出される育児に対する熱い思いを聞くことができました。

最後に、病院建替えに伴って移動した梅田病院のシンボルである真っ赤な「ロンドンバス」を移設する作業風景のビデオを見るなど、楽しい時間を過ごすことができました。

⑤光市農業振興拠点施設「里の厨」



里の厨では、六次産業化の取組みとして行われている大型ビニールハウスでのイチゴ生産や、そのイチゴを使用してケーキ等を製造しているつかりベリーの取り組み状況等について説明を受けました。

⑥大和複合型施設建設予定地



平成30年度に完成予定の大和複合型施設建設予定地において、市の担当職員から施設設備の概要、今後のスケジュール等について説明を受けました。現地に行くことで、これからできる施設のイメージを膨らませることができました。

⑦室積コミュニティセンター



先月オープンした室積コミュニティセンターにおいて、市の担当職員から本施設ができるまでに実施したワークショップ等の内容、そして施設の概要の説明を受けました。

また、本日のまとめとして、まちづくり市民協議会委員及び「光」発信！プロジェクトチームメンバーが一堂に集い、各委員から本日の感想等を発表し、まちづくりへの思いを共有しました。

タウンウォッチング参加者アンケートの内容まとめ

1 タウンウォッチングで見学した施設等の感想について

(1) 印象に残った施設、また、印象に残ったところなど (新病院建設予定地)

- ・
- ・ 浅江中学校の生徒のプレゼンに感銘を受けた。中学生の力を活用すれば地域の活性化につながると思う
- ・ 浅江中学校の教育システムの確実な実行力を感じた
- ・ 2つの産科、新病院に安心・安全が見えた（人の命を大切にする考え）
- ・ 普段入ることができない産婦人科の施設を見ることができて良かった
- ・ 梅田先生の話が心に残ったのでぜひ、中学や高校で講演してほしい
- ・ 岩田駅周辺地区の複合型施設に関心、期待している
- ・ 室積コミュニティセンターの施設の便利さ。同様の施設を各地区に順次整備できないか など

(2) 本日見学した施設等がもつ「強み」をさらに伸ばすために必要な取組み

- ・ 新病院への各地区からの交通アクセスの確保
- ・ 産科病院の良さ（安心して出産、育児ができること）をPRすべき
- ・ 他市から出産のため光市の産科にくる人に対して、光市が「出生証明書」のようなものを発行し、光市に愛着を持ってもらうようにすべき
- ・ コミュニティスクールの取組みを市のホームページ上でPRすべき
- ・ 里の厨に、農産物や耕作地等の情報を見ることのできる端末を設置する
- ・ 出産から幼稚園、保育園そして小学校へ連携させ、10歳までの人間形成を大切にしたまちづくりを進めるべき（おっぴい都市宣言の理念に基づく）
- ・ 自然を活かした生活空間を整備する
- ・ 高齢化対策で、各地にバスを走らせる必要がある
- ・ 室積のワークショップの取組みは、地域づくりを考える上で参考になる
- ・ 各地域で、特に若者の意見や思いを取り入れることが大事 など

2 今後のまちづくり全般について

- 若者にやさしいまちづくりをすべき
(子育て世帯や家を建てた人への経済的支援等)
- おっばい都市宣言をもっとPRすべき
(おもてなしの心に通じ、人にやさしい安心・安全のまちにつながる)
- 梅田病院の2階建てバスの有効活用
- 市や観光協会のホームページの充実を
- 大和地区の商業集積について考える必要がある
- 「箱物」の優先を見直し、人と人の「交流」に重点を置くべき
- 人口減少社会に対応したまちづくりを
- 都会の人が憧れるようなまちづくりを目指すべき
- 空き家の調査、整理、活用
- 地域の協力と努力が必要
- 公共施設と商業施設、病院等が徒歩で移動できるようになれば良い
- 協議会委員と市職員PTと一緒に参加できたことは良かった。(まさに“協働”によるまちづくりと言える)
- 会議だけでなく「動く」ことによって、実効性のあるアイデアが生まれると思う など

お忙しい中、ご参加いただきまして
ありがとうございました。